

「雪原の地球影」

我々人類は、数名を除いて、現在地球大気圏の中にいます。地上にいて、「自分は球体の地球上にいるんだ」と実感するチャンスは、なかなかありません。夏のハンガリーを旅行した時に、地平線まで全く何も無い大平原を歩きました。その時は、本当に「地球を旅している」と実感したものです。



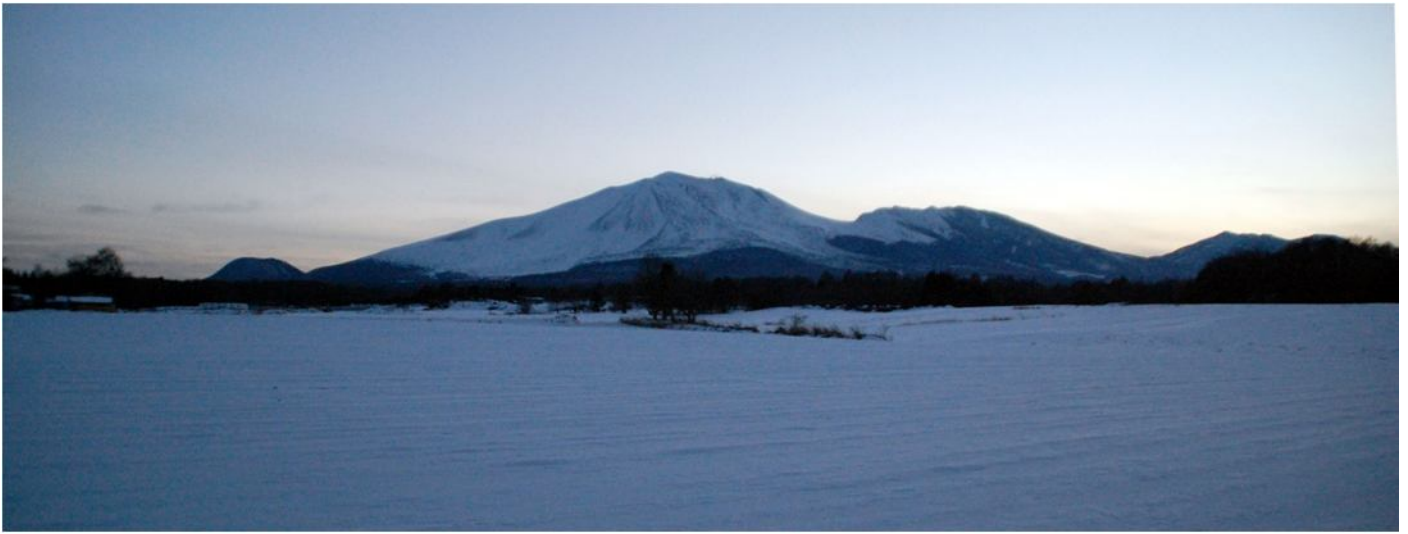
「ハンガリーの大平原と自分の影」(魚眼レンズで撮影)



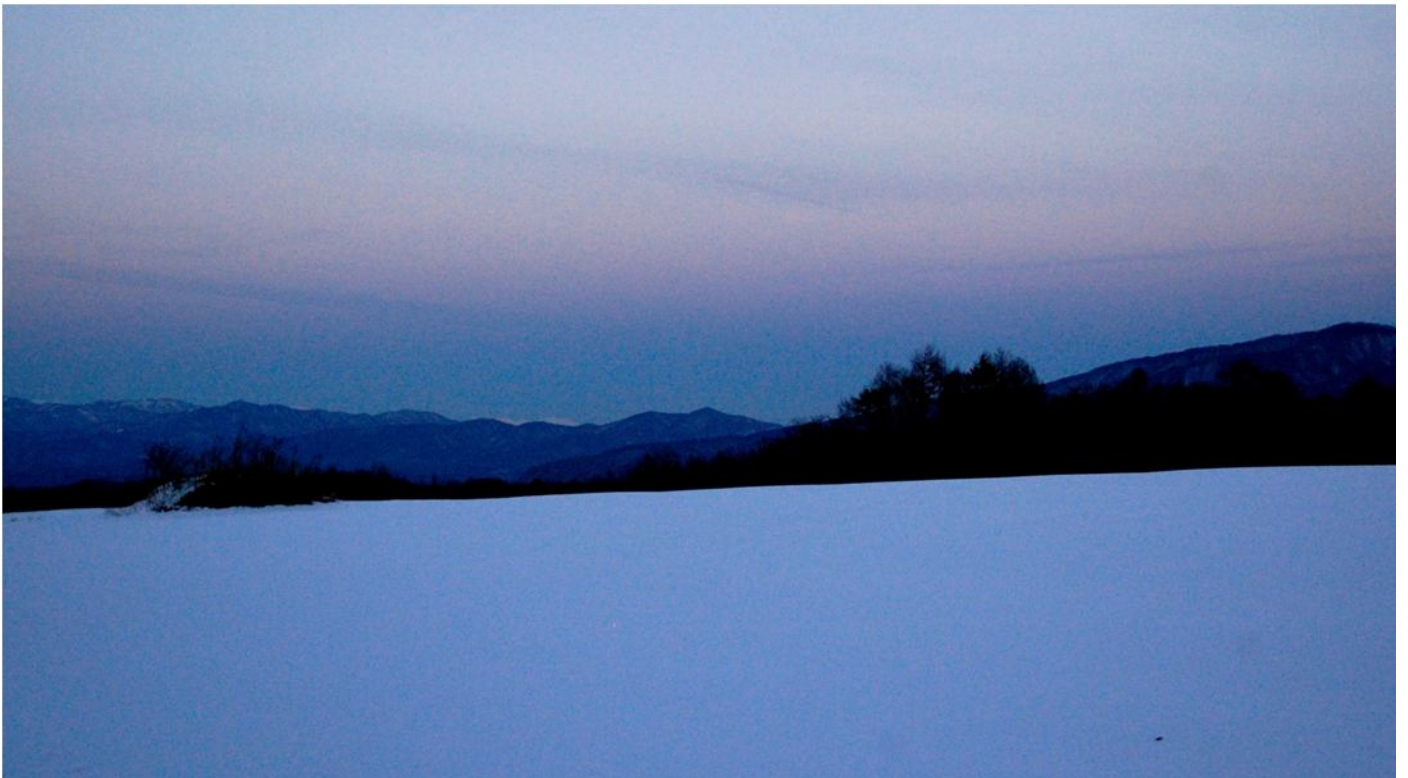
ハンガリーでは、「地球」そのものを実感できましたが、日常生活の中では、こういう機会はなかなかありません。いや、もう一つ、毎日実感できる現象があります。それが「地球影(ちきゅうえい)」です。

左の図のように、地球影は、観測者が昼と夜の境目にいる時(日没直後か日の出直前)に、地球そのものの影が、大気に

投影されて帯状の暗影として見える現象です。東京でもビルの谷間に見えますが、やはり、人工物の何もない場所のほうが観測しやすい現象です。今年の浅間高原は雪が多く、牧草地も真っ白です。雪は地上の人工物をすっかり隠してしまうので、見た目は「大雪原」になります。私は、日没時刻に合わせて、雪原から見た地球影を見に出かけました。



「夕暮れの浅間山」 太陽は浅間の右側（西南西）に沈みました。



浅間の反対側に見えた「雪原の地球影」

私は雪原の真ん中に立って、地球影の変化を観察していました。気温はすでに -9°C 。幸い無風だったので、地球の影が地平線からゆっくり昇って来る様子を、最初から最後まで見ることができました。「あ、ここは地球だ！」と久しぶりに実感できました。

（お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋）